

# 総務常任委員会行政視察報告

総務常任委員長 五十嵐 完二

【視察日程】平成 30 年 7 月 30 日（月）～8 月 1 日（水）

【視察委員】五十嵐完二委員長，宇野耕哉副委員長，  
古泉幸一委員，内山航委員，高橋三義委員，佐藤耕一委員，  
田村要介委員，倉茂政樹委員，小山進委員，青野寛一委員

【視察地】大阪府寝屋川市，岡山市，島根県松江市，島根県出雲市

【調査事項】寝屋川市：長時間労働抑制システムの導入について

岡山市：移住定住促進の取り組みについて

松江市：移住定住促進の取り組みについて

出雲市：移住定住促進の取り組みについて

## ○寝屋川市：長時間労働抑制システムの導入について ～寝屋川市～

### 1 視察目的

厚生労働省が進めている「働き方改革」の実現に向けて本市も取り組んでいるところであるが，勤務の多忙化解消には至っていない現実があることから，寝屋川市が導入した長時間労働抑制システムについて視察を行った。



### 2 視察概要

#### (1) 働き方改革『ねやがわスタイル』に至る経緯

寝屋川市では，月 80 時間以上の時間外勤務を長時間労働と位置づけ，これまでもノー残業デーの実施，退庁を促す音楽やチャイムの放送，時間外勤務に関するヒアリングの実施など長時間労働の縮減に努めてきた。しかし，長期間労働は減少せず，精神的要因による休職者も正規職員の 2%程度で推移していることから抜本的な改革を始めた。

#### (2) 事業の目的

①年度末に向けて予算編成等で長時間労働の増加が予想される，②仕事の質を高め，より効率的な事務執行・事務改善を進める，③子育てや介護も含む，ワーク・ライフ・バランスを推進しなければならない，という課題があり，職員一人ひとりが心身ともに健康で持てる能力を最大限に発揮することにより，市民サービスのさらなる向上と，都市格の向上を図る。

(3) 長時間労働縮減のための取り組み内容

- ① 所属長による時間外勤務命令，事前承認の徹底
- ② 庁舎の一斉消灯
- ③ 会議は1時間以内とするなどのワントイムルールの徹底
- ④ 管理職ヒアリングの実施
- ⑤ 長時間労働抑制システムの導入
- ⑥ 改善が見られない職場は，職員全員が帰るまでは担当課長は残る
- ⑦ 年次休暇の計画的な取得
- ⑧ 管理職は長時間労働をさせない意識改革
- ⑨ 一般職は長時間労働をしない意識改革

(4) 長時間労働抑制システムについて

ア システムの概要

- ① 終業1時間30分前にパソコンの利用可能時間と，残業には申請が必要な旨を30分毎に表示
- ② 勤務終了時間から20分経過後10分間，パソコンに警告文を表示し，10分後に強制終了
- ③ 残業が必要な場合，所属長に残業時間や業務内容を申請し，事前承認を得る
- ④ 災害時など緊急対応が必要な場合，システムは停止する
- ⑤ 承認者はシステムの分析情報出力機能により適宜分析を行い，長時間労働是正につなげる

イ システム導入の狙い

- ① 時間を意識した業務遂行による作業の効率化で生産性が向上する
- ② 残業の事前承認の徹底による仕事の見える化で職場のマネジメントや上司と部下のコミュニケーションが向上する

以上の結果，長時間労働を是正し健康で働きやすい職場をつくる。

(5) システム導入後のアンケート結果

- ① 導入前と比べ，時間を意識して働くようになった（約5割）
- ② システムの操作は簡単だった（約9割）
- ③ パソコンが強制終了されることで特に困ったことはなかった（約8割）
- ④ 全庁的な導入は有効だと思う（約6割）

また，残業時間が大きく減少したことから一定の効果はあったものと考えられる。

### 3 所見

長時間労働の抑制は喫緊の課題であり，本市でも引き続き取り組まなければならない。寝屋川市が導入したシステムは一定の効果を上げていることから参考になると思われる。市民サービスの向上と職員のメンタルヘルスへの効果を見ながら長時間労働抑制に取り組んでいく必要があると思われる。また，業務内容や勤務時間に対する職員へのヒアリングや意識啓発も大切であると考えられる。

## ○移住定住促進の取り組みについて ～岡山市～

### 1 視察目的

岡山市の人口は約 71 万 7 千人で政令市の中では多くないが、移住先としての認知度は近年高まりを見せ、平成 24 年の転入超過 1,655 人、全国 14 番目を最高に、ここ数年他市町村からの転入超過を続けて記録している。また、移住したい都道府県ランキングも安定して上位に位置し続けている。

なぜ、今岡山市が移住先として注目されているのか、また、施策としてどんな仕掛けを講じているのか、人口減少対策として移住・定住支援の取り組みについて行政視察を行った。

### 2 移住目的の変化とその理由

首都圏からの移住定住のニーズが変化している。震災前は、主にはセカンドライフのための 50 歳代後半以降の移住定住のニーズが多かったが、震災後は 30 歳～40 歳代が中心となっている。岡山市の移住人口の増加は、①自然災害が少なく、②交通アクセスが良く、③有効求人倍率が高い、などの安全な街というイメージがプラスに働いており、

- ・子どもや家族の健康・安全を守りたい。
- ・災害の少ない場所で安心して暮らしたい
- ・環境の良い場所で子育てをしたい。
- ・仕事だけでなく、家族と過ごす時間を長く持ちたい。

以上のようなニーズに応えることを念頭に現在の施策を展開している。

### 3 主な取り組みと経過

#### ① 平成 20 年、「岡山県交流・定住促進協働会議」の設置

県、市町村、民間団体の協働により交流・定住希望者への情報発信や受入体制の整備を進め、交流・定住人口の拡大を目的に「岡山県交流・定住促進協働会議」を設置。

#### ② 平成 25 年、「移住・定住支援室」を設置

仕事や住まいを初めとした様々な移住相談などのニーズにワンストップで応えるため、政策局事業政策課内に移住・定住支援室を設置。

#### ③ 平成 26 年、「岡山市移住定住支援協議会」を設立

移住支援団体など民間との協働による協議会を設立し、年三、四回会議を開催。

#### ④ 同年、「住まいの支援サービス」を開始

15 の連携自治体とともに、宅建協会・不動産協会が連携し、県外からの移住希望者にワンストップで物件提供する全国初の取り組みである支援サービスを開始。

### 4 主な支援施策

#### ① 移住相談会の開催

東京で年 3 回実施し、平均約 100 名が来場

#### ② 移住下見ツアーの実施

県外の 30～40 代の子育て世代に 1 泊 2 日の見学会を年 2 回実施。1 回約 10 組 30 名参加

③ メディアを活用した情報発信

ポータルサイト「おかやま生活」、移住関連雑誌への広告掲載、フリーペーパーなど

④ 移住・定住用お試し住宅の提供

目的外使用が可能な市営住宅をリフォームし、最長6カ月間利用できる移住・定住用お試し住宅を平成27年度まで提供。その後、UIJターン希望者への家賃負担補助（自己負担1万5千円、仲介手数料補助上限4.8万）→年間利用件数は13件程度

⑤ UIJターン希望者の就職・転職活動支援事業

東京圏から市内企業への就職・転職希望者を対象に、交通費半額を助成。年間25人

⑥ 移住相談東京窓口の新設

⑦ 連携中枢都市圏（13自治体）による相談会・移住下見ツアーの実施

## 5 所見

岡山市は温暖で災害が少なく、新幹線、空港、港など交通の便に恵まれており、その強みを十分理解して積極的に移住・定住支援に取り組んでいた。施策そのものは驚くほどの目新しいものではないが、官民連携、都市間連携など連携をキーワードとして、施策の拡がりを構築していると感じた。特に支援サービス室の取り組みは、強くその思いが語られ、一人ひとりの積極性が我々にも伝わった。

実は、平成29年は岡山市への移住者そのものも、東京圏での相談会への出席者数も大幅に減少している。これは、広島・岡山を襲った豪雨災害が大きく影響しているとのことであった。

南海トラフ地震の発災の可能性が高まっている中、特に大都会からのUIJターンのニーズが本市や岡山市などの中規模政令市に向かう可能性が高い。様々な意味で安心して暮らせる環境整備とともに、岡山市のように連携中枢都市の中核を政令市が積極的に担うという姿勢が本市にも求められているのではないかと感じた。

移住・定住施策の都市間競争が高まっている中、どう連携を取っていくのか、その本気度、そこから生まれる創意工夫が勝負の鍵になってきていると強く感じた有意義な視察であった。



## ○移住定住促進の取り組みについて ～松江市～

### 1 松江市の概要

松江市は古代出雲の中心地として早くから開け、奈良時代には国庁や国分寺が置かれていた。地名の由来は慶長 16 年堀尾吉春が亀田山に城を築き、白潟・末次の二郷をあわせて松江と称したとされている。人口は平成 29 年時点で 203,899 人。人口動態は自然増加数がマイナス 600 人。社会増加数は 32 名となっている。



### 2 U I ターンの促進や就業支援

松江市へのU I ターン者数は平成 29 年度 1,253 名となっており、島根県全体の 2,221 名と比べてもその半数以上が松江市への転入となっている。そのうち、Uターンは 828 名、I ターンが 421 名、不明が 4 名となっている。また、若者が地方にとどまり家庭を築いていくためには、魅力的な雇用の場の確保に併せて地元企業への就職促進が重要であるとし、平成 26 年 5 月に県境を越えた中海圏域 4 市（松江・安来・米子・境港）で中海圏域就業支援連携事業推進協議会を設立した。これにより、新規雇用の開拓や就業相談、しまね大交流会、情報サイトによる地元企業の情報発信などを広域連携で行っている。

### 3 子育て支援

子ども医療費助成については、小学校 6 年生までの子どもの医科，歯科，薬局等での保険診療医療費を無料化している。また、保育所・幼稚園保育料の軽減にも取り組んでおり、1 世帯で複数児童が同時に通所（通園）する場合に 2 人目以降の保育料を軽減し、第 2 子目が半額，第 3 子以降は無料となっている。

### 4 地域の魅力を活かした取り組み

I T 産業の振興として松江発のプログラミング言語「R u b y」を活用した産業の活性化に取り組んでいる。他の言語に比べシンプルで効率の良い作業が可能であり、国内外で利用が広がっているプログラムであり、小・中学生から大学，高専まで幅広く「R u b y」に触れる機会を提供している。

### 5 所見

I T を活用した地域振興策は珍しいと感じた。「R u b y」に触れる機会を提供することによって子供のころからプログラミングに関する知識を得ることができるばかりでなく、それを全国に発信していくことによって松江市自体の I T 都市としての知名度も上がっていると感じた。事実，お話を聞くと事務所をどこにおいても大差がない I T 起業家が松江市で起業する例が報告されており，新潟市としても今後は幅広く魅力をアピールすることはもちろん，ある一定層からのマンガ・アニメの聖地としての認知度を上げていく必要があると感じた。

## ○移住定住促進の取り組みについて ～出雲市～

### 1 出雲市の概要とあらまし

出雲市は、人口約 17.5 万人で、島根県第 2 の都市であり、中央部は出雲平野、南部は中国山脈で構成され、日本海と宍道湖に面している。

出雲大社を初めとする歴史・文化遺産があり、全日本選抜駅伝競走「出雲駅伝」などのイベントも行われている。また、出雲空港、港、山陰自動車道などがあり、地震も少なく、中心部は積雪の影響も少ないところである。

2012 年度に、今後 10 年間で展望して、出雲市総合振興計画「出雲未来図」を策定し、「雇用創出 2,000 人プロジェクト」、「定住人口 17 万人プロジェクト」、「交流人口 1,000 万人プロジェクト」、「住みやすさナンバーワンプロジェクト」の 4 つの戦略プロジェクトに取り組んでいる。

### 2 「縁結び定住課」を設置し、定住促進に力そそぐ

2014 年 4 月からは、総合政策部に「縁結び定住課」を設置した。

その所管業務は、「出雲ブランド化推進」、「定住促進」、「縁結び（結婚対策）」他である。2018 年度予算では 5 億 2,600 万円を計上し、取り組みを促進している。

定住促進では、「定住推進事業」、「定住促進住まいづくり助成事業」、「移住促進住まいづくり助成事業」のほか、「空き家バンク登録支援事業」を実施している。

### 3 空き家バンク登録支援事業

「空き家バンク登録支援事業」は、出雲市内の空き家 2,570 棟を、A「すぐに住めそうなもの」1,971 棟など、4 つのランクに分類。

出雲市が過疎地域、中山間地域等の集落の空き家を借り上げ、水回り等の改修工事を行った後、定住希望者（特に子どもがいる家族）に貸し出すもので、人口減少と高齢化が進む 3 つの地域に限定して実施している。



原則、市外在住者とし、子どもと一緒に入居する人を優先し、市が所有者から借り上げている期間（12 年）が満了した後は、市が所有者に住宅を返還。その後は、入居者が所有者との話し合いにより、所有者との直接賃貸契約、購入、退去などを決めることにしている。

2014 年度は登録が 33 に対して成約が 20、'15 年度は登録 21、成約 19、'16 年度は登録 17、成約 14、'17 年度は登録 20、成約 14 と、登録に対する成約は順調に推移している。

### 4 所見

空き家バンク登録支援事業は、出雲市が中に入ることにより所有者から信頼を得ている状

況である。

本市も西蒲区越前浜地区や秋葉区小須戸などをモデルに「移住モデル地区定住促進住宅支援事業」が行われ、越前浜地区では 17 件 39 人の利用があるなど成果も出ている。ここは地域をよく知る自治会長が中に入り所有者の信頼を得ているが、出雲市のように行政が中に入る形態をとればさらにモデル地区を広げることが可能と考えられる。

新潟市内の人口減少や高齢化が進む地区にこの取り組みを広げて人口減少対策の取り組みにしていくことも有効ではないかと考える。